

会議名	第1回新城市公共施設再配置計画検討委員会		公開
日時	令和7年1月20日(月) 午後6時30分～午後8時20分	場所	市役所本庁舎 4階会議室
出席者	(委員) 杉木直、吉村輝彦、伊藤雅朗、村松昂章、浅井泰博、片桐幹久、 垣内隆由、河村晶子、河合好彦、岡山ひろみ		
	(事務局) 下江市長 総務部：佐藤部長 資産管理課：野澤課長、浅井副課長、竹下係長、三輪主任、鈴木技師、 夏目主事、請井主事、山田技師 (支援委託業者) ランドブレイン株式会社名古屋事務所：伊藤、松波、谷口		
欠席者	なし	傍聴者	なし
配布資料	第1回新城市公共施設再配置計画検討委員会 次第 資料1 新城市公共施設再配置計画検討委員会設置要綱 資料2 新城市公共施設再配置計画検討委員会委員名簿 資料3 新城市の現状・課題、これまでの取組みについて 資料4 新城市公共施設再配置計画改訂スケジュール 資料5 新城市公共施設再配置計画検討委員会スケジュール 資料6 市民参加手法の実施計画(案) 資料7 公共施設マネジメントにおける先進事例について 資料8 情報共有ツールの利用について 資料9 公共施設に関する計画(総合管理計画・個別施設計画)		

議題・議事・発言等(要点記録)

1 開会

(1) 開会宣言

事務局	事務局から開会宣言を行った。
-----	----------------

(2) 選任通知書の交付

事務局	事務局から選任通知書の説明・交付を行った。
-----	-----------------------

(3) 市長挨拶

市長	皆さん、こんばんは。本日大変お忙しい中、第1回新城市公共施設再配置計画検討委員会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。心より感
----	--

謝申し上げます。

そして委員就任につきまして、皆様には快くお引き受けをいただきました。また、公募委員の皆様におかれまして、主体的に参加をいただきましたこと重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

これまで新城市は、特に成長期に建設しました公共施設の活用は、市民の皆さんの生活を豊かにして地域の発展に寄与してきた、そういう経緯があります。

しかしながら、公共施設の老朽化はもちろんでありますが、社会生活の変化、また、高齢化が進む中での人口動態の変化、そして財政的な制約の中で、市民に必要とされる公共施設の機能や施設の有効活用、それらを踏まえて、どのように再配置をしていくかが大変な課題となっております。

これまでの公共施設に関する取組みとしましては、平成28年度に公共施設等の統一的な維持・保全、管理に関する将来の基本方針、及び、数値目標を定めました公共施設等総合管理計画を策定しました。そして令和2年度では、総合管理計画の実行計画となる個別施設計画を策定しました。

総合管理計画では、平成29年度から令和28年度までの30年間で、施設の総量30%の縮減を目標に公共施設の管理を進めておりますが、昨年11月の日本経済新聞で、「余る公共施設、足りない財源、市区町村の6割超で集約の遅れ」という見出しで、全国的に公共施設再編計画の実行が停滞していると報じられました。

本市におきましても、人口減少に応じた公共施設の集約に停滞が見られております。そのため、実効性のある計画をどのようにして策定していくかが重要であります。

この計画期間の中期にあたります令和9年度以降の総合管理計画及び個別施設計画(第2期)の策定に向け、メインとなるのが機能の再配置であります。公共施設の再配置は市民の日常生活に直結する大変重要なテーマです。再配置を核とした計画策定がゴールではなく、市民の皆さんに良くなったことを実感してもらうところを想像して取り組んでいきたいと考えています。課題でございますが、自分たちのニーズに合ったまちをデザインする作業や、その可能性を発掘する作業でもあります。機能・サービス提供の広域化も視野に入れ、私も取り組みたいと思いますので、委員の皆様におかれましては、各施設の現状評価や利用状況、そして将来にわたる需要予測をもとに、総合管理計画の改訂、及び個別施設計画(第2期)の策定プロセスにおいて、民間企業、地域、市民の力を駆使した、様々なご意見をいただきたいと思います。

計画策定支援のプロポーザルの段階から本事業に携わっていただいております。

	まず杉木先生、参加型のまちづくりを専門としてご活躍されております吉村先生をはじめとした委員の皆様、それぞれのご経験、ご見識による再編成に関するご提言を賜りますことをお願い申し上げまして、私から挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいいたします。
2 本委員会について	
事務局	資料1をもとに、事務局から本委員会の設置目的について説明を行った。
3 委員紹介	
	委員の自己紹介を行った。
4 事務局職員紹介	
	事務局、ランドブレイン株式会社の自己紹介を行った。
5 委員長・副委員長の選出	
事務局	各委員の同意のもと、事務局により、杉木委員を委員長として選出した。
杉木委員長	杉木委員長の指名により、吉村委員を副委員長として選出した。
6 議事	
事務局	本委員会は原則公開である旨の説明を行った。 会議録を公開するため、本委員会の内容を録音する旨の説明を行った。 議題の進行を杉木委員長にお願いをした。
(1) 新城市の現状・課題、これまでの取組みについて	
事務局	資料3をもとに、事務局から「新城市の現状・課題、これまでの取組みについて」の説明を行った。
< 質疑応答 >	
委員	人口推移の将来予測によると、令和22年頃には、老年人口が生産年齢人口を上回ることに驚愕した。新城市は、人口維持や人口減少のスピードを抑制する計画はあるのか。
事務局	本市では、定住促進を担当する専門の係を設置して対応している。また、本市は、交流人口の増加を目指すといった大きな方向性を示している。
委員	取組事例で紹介された「地元地区への譲渡」について、施設の維持管理を地元地区へ任せるという認識だが、その地元地区が施設を欲しがっていたのか。
事務局	適正利用の視点から、地元地区が主に使っている施設(集会所・公民館)の維持管理を任せている。また、この取組みは計画以前から取り組んでおり、合意形成も取れている。

委員	「民間事業者・市・市民が Win-Win-Win になるような廃止施設の利活用を進めていく」という提案について、第 1 期の計画策定の段階では、そこまで考えられていなかった、という認識でよいか。
事務局	第 1 期では、各論に踏み込んだ計画内容の策定や地域との合意形成をしてこなかったため、第 2 期では、各論に踏み込んだ協議や地域との協議を進めていきたいと考えている。
委員	廃止に向けた利用者・地域住民との合意形成について、地域との協議が少し進んだ話をしてしたが、どのような問題が解決されたのか。また、どのような方向に進んでいるのか。
事務局	以前までは、地域が考えて市へ提案するという受け身の形になっていたが、今回からは、市から地域へ提案するという能動的な形へ変えた。
委員	事例その 2 のように、学校の廃校に伴い教育機能がなくなった場合でも、避難所としての機能は必要だと考える。そのような機能を他の施設で代替できるのか。できないのであれば、維持管理費や更新費用をどうしていくか、地域の方と考えていく必要があると感じる また、目標設定について、延床面積の 30% 縮減が必須であるのか、または、維持更新費用の 30% 縮減が必須であるのか、市としての考えはどうか。
事務局	費用の 30% 縮減が達成できれば良いと考えている。公共施設を民間企業に活用してもらったり、市が変わって地域が行政サービスを行うなど、費用の縮減が可能であれば、面積を縮減することについては、必須ではない。
委員	施設の再配置よりも機能の再配置が必要であると考えている。最低限必要な機能や地域にとって必要な機能について、まず考えなければいけない。
委員	歳入の内、市税等の自主的に収入できる自主財源の確保に向けて、新東名高速道路周辺に新たな企業が整備される予定はあるのか。
事務局	企業が整備される予定はあるが、企業誘致は他の課で担当している。 歳出における義務的経費が歳入額に追いつかないため、資産管理課では、普通建設費を縮減することを考えている。また、縮減して捻出した費用は他の施策に充てていきたいと考えている。
委員	新都市の生産年齢人口（15～64 歳）の減少スピードはもっと速いのではないか。また、小学校の統廃合は必須になると考えているが、そのスピードはどれくらいなのか。

事務局	<p>複式学級が増えていくことが現実的である。小学校の統廃合については、子どもたちの学習環境を考慮する必要がある、「生徒数の減少＝小学校の統廃合」という考え方ではない。その点も含め、学校の在り方について今後も検討を進めてく。</p> <p>また、参考として、教育委員会が学校関係者・保護者にアンケート調査を行っており、その内容については4月以降のシンポジウムで報告を検討している。</p>
委員	<p>教育環境のあり方に関する内容が中日新聞(東三河版)にデータが掲載されていたと記憶しているが、そのような把握を市がされているのであれば、情報提供して欲しい。</p>
委員	<p>教育委員会によると、子どもの人数が急激に減少しているとのこと。小規模の小学校、中学校が増加すると見込んでいる。</p> <p>また、アンケート調査について、事務局がお話した通りである。</p> <p>今後は、児童・生徒数の推移を見ながら、望ましい教育環境について、保護者の方や地域の方と考えていく予定。アンケート調査の集計結果はホームページで公表する予定。</p>
委員	<p>新城市民間提案制度について、民間事業者は儲けが無ければ参入しないのではないかと。また、民間事業者が参入したくなるような優遇措置は考えているのか。</p>
事務局	<p>施設の貸し付けにおいては、通常よりも低い金額で設定することや無料の貸し付け(ただし、事業の内容次第)を考えている。その際には、地域との協議・承認は必要であると考えている。</p>
委員	<p>無償の貸し付けは必須であるとして、プラスアルファの優遇措置が必要なのではないかと。</p>
事務局	<p>今後の参考とさせていただく。</p>
委員	<p>老朽化が進む施設について、耐震性能が十分に確保できていない施設があると考えているが、民間事業者へ引き渡しが難しい施設はどれくらいあるのか。</p>
事務局	<p>この場で該当施設の割合までは把握していない。青年の家、老人福祉センターは前年度から今年度にかけて廃止をしたが、そこは老朽化が進んでおり、耐震性能もない施設だった。</p> <p>市としては、財源を使って廃止施設を解体し、更地にして民間事業者へ貸し</p>

	付けを行いたいと考えているが、その財源が確保できないため、解体費用を差し引いた金額で活用してもらえないか、民間事業者へ提案することを検討している。
委員	建築建設関係の専門学校等と提携するなどして、解体・改修費用を抑える仕組みはあるのか。
事務局	現在は、そのような仕組みはないが、今後、そのような提案・仕組みを審査し、採用する可能性はある。
委員	資料4（計画改訂スケジュール）について、各セクションのKPI（重要業績評価指標）・KGI（重要目標達成指標）の設定は計画・検討しているのか、または既に実行しているのか。 目標を達成したいのであれば、各セクションにおける個別の目標を達成するためのステップが必要ではないのか。 また、第1期の個別施設計画の振り返りはできているのか。
事務局	第1期の時点では、各論まで議論ができなかった。 また、令和5年時点での施設総量の縮減率が4.1%（平成27年度と比較）であった原因について、細かい設定ができていなかったためであると考えている。 大きな目標については資料4、資料5で紹介し、計画の検証の必要性については認識している。
委員	第1期の振り返りをしたときに、目標10%減が未到達であり、計画の見直しが必要ではないのか。実行した9年間の振り返りが必要ではないのか。
委員	同じく第1期の振り返りは必要であると考え。どこで無理が生じたのか、また何が不足していたのかなど、未到達の原因を整理する必要がある。
事務局	第1期の振り返り・分析など、しっかりと対応していきたいと考えている。
委員	保護者の立場として、学校が無くなるのは不便であると考えだが、学校の校舎は残して、色々な機能を集約することは可能なのか。
事務局	いわゆる複合化・集約化の可能性についても検討していく予定である。

委員	抽象的なデータが多く、公共施設の再配置を考えるうえで、どう考えていけば良いか分かりづらい。例えば、築年数が30年を超える建物がどのような建物なのかなど、具体的な資料があると分かりやすくなる。 今後、そのような資料・情報は提供していただけるか。
事務局	委員の皆さんには、これから提供していく予定。支援委託業者にて市内の施設状況を全て調査し、地図に対象施設をプロットしたものを作成予定。それらを整理した資料を委員の皆さんに提供し、議論を進めていければ良いと考えている。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局	資料4～6をもとに、事務局から「今後のスケジュールについて」の説明を行った。
-----	--

< 質疑応答 >

委員	ワークショップに参加するメンバーは別途募集するという認識でよいか。
事務局	そのような認識でよい。また、検討委員が参加することも可能。

委員	ワークショップのファシリテーターについて、どのような方に依頼する予定か。
事務局	支援委託業者と協力しながら進めていく予定。第2回・第3回では、ワークショップに参加する方にファシリテーターを務めてもらう方向で検討している。
委員	「市民の意見を聞いて計画をつくる」ではなく、「市民とともに作る計画」であるため、市民の人と学び合いながらできれば良いと考えている。検討に関わってきた人たちが、計画実施にも関わっていけるという考えが良いのではないか。 また、実際にやってみないとわからない部分もあるため、適宜修正しながら進めていきたいと考えている。「決まったゴールに向かっていく」ではなく、「みんなで考えていくこと」を重視していきたい。
事務局	我々だとネガティブな話しかできないため、市民の皆さんとポジティブな計画を一緒に考えていきたい。

(3) 公共施設マネジメントにおける先進事例について

事務局	資料7をもとに、事務局から「公共施設マネジメントにおける先進事例について」の説明を行った。
-----	---

< 質疑応答 >

委員	紹介した事例については、よく読んで確認する。また、成功事例だけでなく失敗事例も把握しておきたいと考えているが、失敗事例を集めることは可能か。
事務局	失敗事例として公表しているものは少ないと思うが、事例のなかで失敗や反省点を挙げているものを中心に可能な限り集めることは可能。

7 その他

(1) 情報共有ツールの利用について

事務局	資料8をもとに、事務局から「情報共有ツールの利用について」の説明を行った。 各委員に対し、LOGOチャットのログインを行ってもらうよう案内した。
-----	---

8 閉会

事務局	事務局から閉会の挨拶を行った。
-----	-----------------

以上